

# 財源は国債

本年度予算は、新規国債の発行額が4.4兆円となった新予算です。

財務省は盛んに国債（借金）の残高が増え、財政赤字の危機を吹聴して国民一人当たりの額まで示しています。

財務省のHPでは公債残高に地方の債務などを加えた国・地方の長期債務残高は、平成21年度末に8.5兆円（対GDP比169%）に達するとある。

(有)西川経営オフィスサービス  
**中村会計**  
**事務所便り**  
 2010年4月12日(月) No110  
 地域から明るい未来を作ろう

しかし我が国は、国債は94%以上を国民が購入している。即ち一軒家での借金であって、日本人・夫婦親子の貸し借りで。基本的には外国から借金をして返済すべき米国の事態と全く異なります。国内ですら資産負債ゼロです。投資の主体が支出の構造が時代に合わず温存されてきた結果、日本の凋落は止まらない。いつまでも庶民は豊かにならない。自殺者三十万人(10年)も減らない。

財務省の支配下の金融機関（銀行）は、自己利益優先です。公的使命の機能不全を起すのは当然です。日本の家計を含めた貯蓄残高（1500兆円）は国債発行残高を優に凌駕している。不況下で需要喚起の思い切った国債発行は、当面は問題がないのです。財政再建の原理主義で景気回復はあり得ない。

「ものから人」への投資が基本は妥当です。しかし4.4兆円は少ない気がします。従来と異なり新たな景気対策と

需要の創出が問われます。『小さな政府』ではダメです。中東ドバイの奇跡は人への投資が発展の基礎でした。人を粗末にする会社や社会や国家は、我が国を見るように、衰退します。

これからの新たな社会の構図はヨーロッパ型社会でしようか、それとも日本型？になるのでしょうか。そして、社会福祉税を目的とする税の拡充は当然必要になるでしょう。

ここまでは、すべてのマスコミや権力が政権を総攻撃をする時代が、かつてあったでしょうか。

主なマスコミは欧米資本の大政翼賛会かと疑うものです。

国家存亡の危機並か？落ち着きのない一方通行の騒ぎ方は異常です。危機と見れば、いったい誰の危機でしょうか。

## ものの道理

人間おたがいに落ち着きを失ってくると、他人の庭の花が何となく赤くみえてきて、コツコツまじめにやっているのは自分だけ、人はみな濡れ手でアワ、ラクをしなから何かボロイことをやっているように思えてなくなる。だから自分も何か一つと思いがちだが、そうは人間は許さない。



人情として、ときに迷いを持つのも無理はないけど、この世の中、決してボロイこととはないのである。楽なことはないのである。あるように見えるのは、それはこちらの

心の迷いで、本当は、どなた様も、やはり一歩一歩地道に積み重ねてきた着実な成果を現しておられるのである。だから、努力もせずに濡れ手にアワみたいなおもちゃをやってみても虫が良すぎるといふもの。一時はそれですごせても、決して長続きはしない。結局は失敗ということになる。これはものの道理であって、この道理をはずれた望みを持つというものは、それこそ欲が深いというものである。

欲が深いのは失敗のもと。やはり、ものの道理に適した道を、一歩一歩歩んでゆきたい。

「道を開く」 松下幸之助

## マスコミは民の味方？

米と旧利権勢力しか見えてこない。「抵抗勢力」です。現在日本は革命真っ最中、主役は国民です。

止みません。朝のワイドショーなど見え見えと見えておられる。これからも、日本人が欧米支配に屈するか、試されるのです。ここ数年は日本の分水嶺？。こんな時代過去の歴史の中で、「大事件」が起きています。何か起きるのでしようか。静かであってほしいものだ。

また騙されてはなりません。よく見て考え、マスコミの支配に下れば不幸の連鎖は

静かであってほしいものだ。